

再評価結果（平成27年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課

担当課長名：茅野 牧夫

事業名 東九州自動車道 <small>きよたけ</small> 清武JCT～ <small>きたごう</small> 北郷	事業区分 高速自動車国道	事業主体 国土交通省 九州地方整備局		
起終点 自：宮崎県宮崎市清武町大字今泉 至：宮崎県日南市北郷町大字郷之原		延長 19.0km		
事業概要 東九州自動車道 清武JCT～北郷は、高速道路ネットワークの一部を形成し、九州東部の広域的な連携を図り、物流の効率化及び地域の発展、災害に強いネットワークの構築等を目的とした事業である。				
H10年度事業化	H一年度都市計画決定 (H一年度変更)	H17年度用地着手		
H17年度工事着手				
全体事業費	約1,298億円	事業進捗率		
		57%		
計画交通量	19,700台/日			
費用対効果分析結果	B/C (事業全体)	総費用 (残事業/事業全体) 426/1,342億円	総便益 (残事業/事業全体) 1,421/1,421億円	基準年 平成26年
	1.1 (残事業) 3.3	事業費：386/1,299億円 維持管理費：40/43億円	走行時間短縮便益：891/891億円 走行経費減少便益：362/362億円 交通事故減少便益：167/167億円	
感度分析の結果				
【事業全体】交通量：B/C=0.95～1.2（交通量±10%） 事業費：B/C=1.03～1.1（事業費±10%） 事業期間：B/C=1.01～1.1（事業期間±20%）				
【残事業】交通量：B/C=3.0～3.7（交通量±10%） 事業費：B/C=3.1～3.7（事業費±10%） 事業期間：B/C=3.2～3.3（事業期間±20%）				
事業の効果等				
①広域交通ネットワークの形成 ・沿線各都市間の所要時間短縮により、九州東部の地域経済の活性化及び高速定時性の確保				
②災害に強いネットワークの構築 ・並行道路である国道220号、(主)日南高岡線の通行止め時の代替路や災害時（津波浸水想定箇所）の迂回路として機能				
③観光振興の支援 ・県内外からのアクセス性の向上及び観光客の移動を支援				
④医療施設までのアクセス改善 ・第三次救急医療施設（宮崎大学医学部附属病院）への救急搬送の支援及び救急搬送時間短縮による救命率の向上				
⑤生活環境の改善 ・自動車の走行性向上による環境への影響低減（CO ₂ , NO ₂ , SPM削減）				
関係する地方公共団体等の意見				
日南市をはじめとする関係首長及び議会議長等で構成される東九州自動車道建設促進日南・串間地区協議会（会長：日南市長）等により早期整備の要望を受けている。（平成26年8月）				
県の意見				
東九州自動車道（清武JCT～北郷）につきましては、高速道路ネットワークの一部を形成する路線であり、整備は最も優先されるべきであると考えております。				
このことから「対応方針（原案）」案の「継続」について異論はありません。				
なお、芳ノ元トンネル外各工区につきましては、安全に工事進捗を図るとともに、今後一層のコスト縮減をお願いします。また、本路線の早期供用に向けて、より一層の整備推進並びに供用予定年度の明示をお願いします。				

事業評価監視委員会の意見
審議の結果、事業継続。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等
沿線地域の人口は横這い。沿線地域の一世帯あたりの自動車保有台数は九州全体よりも多い。並行路線の交通量は横這い。

事業の進捗状況、残事業の内容等
平成10年度に事業化、用地進捗率99%、事業進捗率57%（平成26年3月末時点）
平成24年度：清武JCT～清武南IC間 延長1.2km（2/2）部分開通

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等
地元や関係機関との協力体制のもと、今後も引き続き残工事等の事業進捗を図っていく。

施設の構造や工法の変更等
施設の構造や施工等に変更はないが、新技術・新工法の積極的な活用及び建設副産物対策により、着実なコスト縮減に努める。

対応方針 事業継続

対応方針決定の理由
以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。